

世界遺産：日光の社寺

日光の世界遺産の神社と寺院は、2つの神社と1つの寺院で構成されている。

日光東照宮は 1603 年から 1867 年まで日本を支配した徳川幕府の開祖、徳川家康 (1543~1616 年)を祀る神社で、その豪華な建物と数多くの彫刻で有名である。

二荒山神社は日本で最も古い神社の一つであり、その歴史は 8 世紀に建てられた日光の最初の宗教的な場所にまで遡る。山岳信仰の聖地でもある。

日光山輪王寺は、現在 15 棟の院がある仏教寺院であり、山岳修行僧の勝道上人 (735 ~817) によって設立された四本龍寺の後継である。

この神社と寺院の複合体を構成する多くの建物は、樹齢数百年の巨大な杉の木に囲まれている。建物と樹木は、同化した存在として結合し、歴史、建築、自然が融合した文化的景観を形成している。

日光の社寺は、1999 年にモロッコの世界遺産委員会の第 23 回会議で世界遺産に登録された。同委員会は、自然の景観に統合された建築と芸術の天才的独自の組み合わせ、日光の物理的構造がその後の日本の建築に与えた影響、神道の独特の表現と自然との調和を高く評価した。